

「虚空蔵菩薩像」を探してほしい



國造神社の奉納物の下見調査が10月25日行われ、石川県歴史博物館から北春千代学芸主幹、金沢市文化スポーツ局文化財保護課から宮本陽介主査と外川奨係長が調査に入りました。この調査は拝殿内の入り口側に掲示されている源平合戦の大絵馬（縦96センチ、横518センチ）の鑑定と保存方法を依頼して行われたものですが、絵馬

について北学芸主幹は「雲の描き方などから江戸末期の制作のものと推定されるが、剥落しているところの修理もかなりの費用が掛かるので、現状のまま大事に保存することが望ましい」との見解が示されました。また、現在所在が不明で、昭和37年発行の『國造神社神社正誌』に記述されている古いものから順に「事代主命御像」（木像）「阿弥陀如来像」（御懸金仏）「虚空蔵菩薩像」（木像）の奉納物にも強い関心を示し、「ぜひ探し出して見分させてほしい」と何度も要望されました。大国主命の子である「事代主命御像」は林秀信氏による鑑定書も残っていますが、14世紀前半ごろ清泉の中から現れたと言われているものの、鑑定当初既に右手部分を欠き、虫食い甚だしいと記されている木造だけに、50年後の今日、どのような形で現存しているのか、その傷み具合が心配されます。一方、智恵や記憶をつかさどり古来から信仰の篤い「虚空蔵菩薩像」は十三詣りで知られる京都嵐山の法輪寺から、前田家が本堂を再建した御礼に前田利家に寄贈され、利家が金沢城の裏鬼門にあたる國造神社に守護本尊として奉納されたと伝えられるものですが、現在は所在が確認されていません。

鈴緒を新調 菅原神社の秋祭りが25、26日行

われ、学問の神様として親しまれる天神さんの参拝に初日は50人を超す人出がありました。中には受験を控える中学生や成績向上を願う小学生の姿も見られ、新調された鈴緒に願いを込めて元気に振っていました。

